

## (質問)

US\$ を調達する際や売却する際に、交換するレートが公表中値と比べて随分目減りしている気がします。夫々提供されるレートを分かり易く説明してください。また為替リスクを回避する方法があれば教えてください。

## (回答)

外国為替相場は、年間を通して銀行間取引市場で売買取引が行なわれており、銀行間取引相場（Inter-Bank Rate）は為替取引の基準となります。一般の企業や個人はこの取引に参加出来ませんから、銀行の対顧客相場（Customer's Rate）を利用することになります。

## 外国為替表

2025 年 9 月某日の三菱 UFJ 銀行の US\$ と ¥ の対顧客為替相場は次の通りです。

| ※輸入者側向け   | レート           | スプレッド |
|-----------|---------------|-------|
| ④ CASH S. | 149.80        | 2.80  |
| ③ ACC.    | 148.42        | 1.42  |
| ② T.T.S.  | 148.00        | 1.00  |
| ※公表中値     |               |       |
| ① T.T.M.  | <b>147.00</b> | 0.00  |
| ※輸出者側向け   |               |       |
| ⑤ T.T.B.  | 146.00        | -1.00 |
| ⑥ A/S     | 145.58        | -1.42 |
| ⑦ D/P D/A | 145.28        | -1.72 |
| ⑧ CASH B. | 144.00        | -3.00 |

銀行が顧客に外貨を売る相場を " Selling (売り) "、銀行が顧客から外貨を買う相場を " Buying (買い) " と言います。

① T.T.M.対顧客中値（Telegraphic Transfer Middle Rate）：対顧客相場は午前 10 時頃の銀行間相場を参考にして、各銀行で公表され、終日その基準レートが適用される。

② T.T.S 電信売相場（T.T. Salling rate）：ドル送金のためドルを買うときに適用されるレート。

③ ACC.信用状付きの一覧払輸入手形決済・売相場（Acceptance Rate）：L/C at sight 荷為替手形決済に適用。銀行手数料に加え、輸出国買取銀行から輸入国支払銀行への手形送付提示期間（12 日間）の輸送期間立替金利分合計 ¥0.42 を T.T.S.に上乘せ。

④ CASH S. 現金売相場（Cash Selling Rate）：銀行が顧客にドル紙幣を売る場合に適用されるレート。銀

行のコストとして、従来 T.T.M.+ 3 円が一般的であったが、自由化の影響で縮小傾向にある。

⑤ T.T.B. 電信買相場（T.T. Buying Rate）：輸出代金として入金したドルを、銀行に買取って貰うときに適用されるレート。

⑥ A/S 信用状付きの一覧払輸出手形決済・買相場（At Sight Rate）：輸出国（日本）の手形買取銀行は、手形代金回収期間の立替金利分を輸出者に支払う事になっている。しかしこの相場レートでは誤差の範囲として扱われている。

⑦ D/P D/A 信用状なしの一覧払輸出手形決済買相場（Without L/C Buying Rate）：信用状の無い⑦D/P D/A は、T.T.M.に銀行のリスク負担料 ¥0.30 が引かれている。

⑧ CASH B. 現金買相場（Cash Buying Rate）：銀行が顧客からドル紙幣を直接買取る場合に適用されるレート。銀行のコストとして従来 T.T.M.から 3 円がマイナスされていたが、④CASH S.と同様に顧客サービスとして優遇レート適用が増えつつある。

## 為替リスク対策

様々な為替リスク対策が考案され活用されていますが、その代表的なものを紹介します。

## ・先物予約

相場の変動によって結果的に有利・不利になるが、予約した段階で円貨での代金決済を確定できるという大きなメリットがある。

## ・日本円決済で為替変動リスクを回避

日本円は貿易決済にも有効なハードカレンシーであり、東南アジア諸国との取引では、日本円建てとすることも可能な場合も多く、為替リスクを回避できる。

## ・マリー

外貨預金を利用し、外貨の債権と債務を相殺する。

## ・スワップ取引によるリスクヘッジ

直物と先物を同時に反対取引するスワップ取引で、決済期日までの外国為替相場の変動リスクをカバーし、早い段階で採算を確定できる。